

第1部 オリジナル・クラシックステージ

■音楽祭のプレリュード

オクラホマ州のフィリップス大学で開催されるトライ・ステート音楽祭の25周年を記念して1957年に作曲され、同年5月に作曲者A・リードの指揮によりフィリップス大学吹奏楽団の演奏で初演となりました。瞬く間に人気を集め出版前に全米各地で頻りに演奏され、日本でも1970年の吹奏楽コンクールの課題曲に選ばれ広く知られるようになりました。ですが、その前年の1969年の記録でも支部大会以上で、何と11団体に自由曲として採りあげられています。

人気曲として、いくつものエピソードを持つ「音楽祭のプレリュード」、是非オープニングでお聴きください！

■マーチ「プロヴァンスの風」

本年度の全日本吹奏楽コンクールの課題曲。フラメンコ調のファンファーレで始まり、異国情緒を匂わせる情熱的で爽やかな前半部と、穏やかにそよぐ南フランスの優しい薫風の後半部というトリオを挟んで雰囲気ガラリと変わる構成となっています。

行進曲という一定のテンポのなかでスペインの躍動感と南フランスのゆったりとした情景を表現するのが難しい曲です。古代ローマの遺跡、陽の注ぐ地中海の碧い海、素朴な自然の風景の中を吹き抜ける「風」を感じてください。

■バレエ音楽「四季」より 秋

1900年初演となった本作はグラズノフが作曲した3つのバレエ音楽のなかでも特に有名な作品です。特定の出来事や物語があるわけではなく霜や氷、草木の息吹き、そよ風など自然現象や風景を絵画の如く描写しています。

本日演奏する「秋」は終幕に相応しく収穫祭を祝う華やかなメロディが次々と演奏されますが、「冬」、「春」、「夏」の主題も順を追って所どころ顔を出し、様々な表情を見せてくれます。特に間奏曲である「Petit Adagio」は妖精たちの会話や踊りを各楽器のソロで表現していますが、非常に美しいメロディが繰り広げられ、この曲の聴きどころのひとつとなっています。

終楽章では冒頭の主題が形を変えて再び現れ、収穫祭の舞いは最高潮に達し、満天の星空のもと幕を閉じます。

第2部 ポピュラーステージ

■スーパーマリオブラザーズ

1985年9月に任天堂から発売されたファミリーコンピュータ用ゲームソフト。日本国内で681万本、全世界で4024万本の売上を記録し「世界一売れたゲーム」としてギネスブックに登録されています。最も聞き覚えのある「地上のBGM」は作曲者の近藤浩次が世界的なサキソフォン奏者の渡辺貞夫から大きな影響を受けて作ったと語っています。「地下」、「無敵」、「水中」などのBGMを情景を思い浮かべながらお聴きください。

■ラッサス・トロンボーン

元タロンボーン奏者であったフィルモアを一躍有名にしたのがこの曲です。彼が手がけたトロンボーン・ファミリー15曲のうちの3作目として1915年に作曲されました。トロンボーンの性質を良く踏まえ、グリッサンドを多用したメロディをバンド全体と掛け合う形式の大変楽しい曲となっています。

そんなH. フィルモアの名曲ですが、本日は桃源ウィンドの迷演奏？にお付き合いください。

■北島三郎コレクション

「サブちゃん」の愛称で親しまれている演歌の大御所、北島三郎！年末の紅白歌合戦へは歴代最多の50回の出場を数えています。また、競走馬の馬主としても50年以上の歴史を持ち、アニメ「おじゃる丸」の主題歌を歌うなど新しいジャンルへも果敢に挑戦しています。

今日は代表作の中から皆さん良くご存じの「函館の女」、「与作」、「北の漁場」の3曲をメドレーでお届けします。

■ひまわりの約束

昨年公開された映画「STAND BY ME ドラえもん」の主題歌。従来のドラえもんを再構築し、原作の7つのエピソードをのび太の視線で懐かしくも新しく描いた作品です。ドラえもんとの出会いと別れ、しずかちゃんとの愛などを全ての子供経験者に観て欲しいといった制作者の意図にならない、全ての子供経験者に聴いて欲しい一曲です。

■スター・ウォーズ コンサート・セレクション

来る12月18日に「エピソード7/フォースの覚醒」が公開される映画「スター・ウォーズ」シリーズ。1977年に第1作目のエピソード4が公開されましたが、それまではマニアックな映画としか認識されていなかった「SF作品」を誰でも楽しめる身近なエンターテイメントへと変えてくれました。

本日はエピソード4・5・6の3部作のなかから「メインタイトル」、「ダースヴェイダーのテーマ」、「レイア姫のテーマ」、「ヨーダのテーマ」、「王座の間とエンドタイトル」の5曲をメドレーで演奏いたします。壮大な宇宙で繰りひろげられる冒険物語を吹奏楽のアレンジでご堪能ください。